

KJ法[®]によるアイデア・サポートの方法開発

真 庭 功 (経営学部経営学科)

これは本学の「体験に基づく発見的・自己開発的な学習」を教育研究課題とする「特色ある教育」(高等教育研究改革推進経費)のうち、2004年度改革個人5プロジェクト「KJ法[®]によるアイデア・サポートの方法開発」として助成を受け、真庭ゼミ(3・4年生)を対象に教育実践を行ったものである。

1. ねらい

知識を形作る発想を発泡させるとともに、携帯電話メールを活用して、ユビキタス社会が掲げる「いつでも・どこからでも」アクセスできるように、アイデアが浮かんだ時にメモし送信する。その後、個別の着想を整理するために、KJ法[®]を電子化した『超発想法 ISOP[®]』を活用して言語データ化された知識をグループ化し、メタ知識にまとめあげ、画像や映像も含め、グループ学習の合意形成に役立てる。さらに、プレゼンテーション技法を活用して発表し、意見交換を行い、レポートや卒業論文の作成に役立てることを目的とした。

2. 授業概要

最初に、KJ法[®](川喜多二郎博士創案の創造性開発技法)の講義を行い、演習課題に『今年の夏休みにやりたいこと』を選び、ブレインストーミングをしながら思いついたことをカードに書き出し、KJ法[®]でグループ化し着想をまとめた。次に言語データの書き出しに携帯電話のメール機能を使い、授業のメールアドレスに集めた。言語データをパソコン上で『超発想法 ISOP[®]』のアイデア・プロセッサ機能を活用して作業を行った。

次にパワーポイントを使って発表資料を作成し、その結果をプロジェクターでスクリーンに投影して全員が発表した。このワークショップは6回のゼミ活動として取り組み、協力者の今里健一郎氏から講評を得るとともに、外部評価の一助とした。

Step	月日	内容
1	5 / 12	イントロダクション, KJ法 [®] : 基礎 1 / 言語データとは
2	5 / 19	KJ法 [®] : 基礎 2 / カードによる KJ法 [®] の作図演習
3	6 / 2	KJ法 [®] : パソコン実習 / 超発想法 ISOP [®] の使い方
4	6 / 9	KJ法 [®] : グループワーク / 携帯電話による言語データの作成
5	6 / 16	KJ法 [®] : グループワーク / 超発想法 ISOP [®] による KJ法 [®] の作成
6	7 / 7	グループ実習の成果発表と講評

3 . 成果

授業実験の成果は、授業中以外に、2004年7月1日に開催された教育研究所主催の第7回教育研究所セミナーで発表の機会を得た。統一テーマは「学生による『体験型学習』報告会」で『携帯電話で発想』と題して発表し好評を得た。

なお、学生発表分については本報告書の「体験型学習報告会」の項を参照してください。

4 . ゼミ活動に対する感想とまとめ

授業中ならびに授業終了後などに、いつでも気のついたときに、授業で感じたことを携帯電話のメールで受信した。その結果を授業と同じ要領で『超発想法 ISOP[®]』を用いて作図し、まとめた(図1)。

その結果は大きく2つに類別された。

パソコンと携帯電話を使った授業は多少難しかったが、楽しく勉強になりました。

楽しく実践に役に立つ授業でした。

その理由として、

については、「やり方は難しかったがおもしろかった」「パソコンを使っただけの授業は勉強になりました」「携帯電話を使った風変わりな授業で楽しかったです」などが挙げられる。

については、「楽しい授業だったので続けて参加できそうです」「授業内容は思ったより簡単であった」「今回の授業内容は実践で役立つものであった」などである。

このことから、受講生にとってパソコンと携帯電話を組み合わせた授業を行うことによって、より興味度が増すものと思われる。興味を持てば、多少難解な内容であっても学習していく意欲がわいてくる。今回の授業の中で2つのタイプのKJ法[®]を体験したわけであるが、伝統的なカードを使った時には、発想があまり出なくて言語データが少なかったのに比べて、ユビキタスをつかった携帯電話では見事に具体的な言語データを作成したということに注目したい。

今回は情報技術を用いた授業実験であったが、携帯電話を有効に活用することにより、教育効

果を向上させる一つの方法として大いに期待できそうである。

この事例に見るように、言語データが知識として明示的に記述されると、アイデア・プロセッサは分類やパターン化、図式化する作業に非常に優れている。しかし、ひらめきを泡立てさせるには人間の脳を活性化することにつぎるが、アイデアが消えないうちにメモすることも一方法である。携帯電話は「現代版メモ帳」としてユビキタス性に優れているので、形式知はもとより暗黙知やひらめきをも書きとめるようにして、時間と空間を自由にし、アルキメデスに因んで「ユリーカ」としたいものである。

最後に、この授業実験に際して、経営学部の特色ある教育の「情報活用講座」に連携する機会が与えられたことに感謝の意を表します。

図1 受講生の感想コメントより作成したKJ法®

